



gleam～唯一無二の光を集めて～

頼まれごととは、試されごと

「夢や志を育む講演会」での中村文昭氏の講演で、「頼まれごととは、試されごと」というお話がありました。「～して」と親や先輩、先生や身近な大人から、ちょっとしたことを頼まれたとき、どう反応するかが大事という話です。「チェッ」といよいよするのか、「よく頼んでくれました。任せてください。」と前向きに受け止めて、積極的に対応するのか、その違いによってその後の人生に大きな差が生じてくるという内容です。

頼んだ相手の予想を超える対応をすれば、相手は大変喜んで、ささいなこともこんなに一生懸命してもらってと感謝の思いも大きくなるし、信頼感は大きくアップし、その人のために何かしてあげようとか、応援してあげようと自分の味方、サポーターを増やすことにつながります。

そうした取組を続けていけば、一人の感謝、信頼、応援から、うわさがうわさを呼び自分の大きな好評判を呼び、多くの人から支持されるようになります。

みなさん、「頼まれごととは、試されごと」、何か頼まれたら、相手の期待値を超えるように頑張ってみましょう。それだけで、明るい大きな未来が開けることでしょう。



人間の喜び

「人間の喜びで最たるものは、人に頼りにされ、あてにされることです。どれだけ財産を持とうが、社会的な地位を得ようが、この喜びに勝る喜びはありません。

人に頼りにされず、あてにされない生き方は、生きがいがなくすばかりではなく、活力を失い、老化の原因にもなります。結果において、惨めな一生を送ることになります。」

自分さえよければ、子ども

中村文昭氏の講演の中で、「自分さえよければ、子ども」というお話があったと思います。

小さな子どもは、自分の感情に素直で、おなかがすけば泣いたり、親に「おなかがすいた、早くご飯にして」と訴えることでしょう。

しかし、年を取って物が見えるようになり、様々な事が考えられるようになると、自分のことだけを考えて、自分の思いだけ満たされればいいというようなことではいけない、と考えられるようになります。

今の自分を振り返って皆さんはどうですか。自分の気持ちにだけ素直で、相手も同じ人間で同じように様々な感情や思いをもっているということを、**頭ではなく心で分かっている**でしょうか。

心で分かっているれば、発する言葉も慎重になると思います。

本当の大人

「わがまま」の中には、許せる「わがまま」と許せない「わがまま」があります。ゆるせる「わがまま」は自分のわがまま、許せない「わがまま」は「人のわがまま」です。

「自分のわがまま」が自分で許せなくなったら、本当の大人です。

「自分のわがまま」は平気で許せるけども「人のわがまま」は許せない、としたら子供です。

鍵山秀三郎「一日一話」3月14日

- * 鍵山 秀三郎（かぎやま ひでさぶろう、1933年8月18日生）は、株式会社ローヤル（現 イエローハット）の創業者。創業以来続けている「掃除」が世間の評判を呼び、のちに掃除運動が内外に広がった。NPO法人「日本を美しくする会」（「日本を美しくする会・掃除に学ぶ会」）の創唱者で相談役でもある。

心を育み、脳を活性化する読書

消化しきれない大きなショックのため、人生に対して強い思いや、夢や希望もなく、浮き草のように生きていた主人公が、あることをきっかけに、人生に対するかかわりを大きく変えていきます。**感性の鋭さ、感じ取ったものを言葉にする表現力、読んだ皆さんもきっと少なからぬ感動を味わうことができる**と思います。



『線は僕を描く』 砥上裕将 著 講談社文庫

両親を一度に亡くした悲しみに心を閉ざし、外の世界につながりや希望を持てなかった少年が、大学生となり、アルバイトで水墨画の展覧会の準備を手伝ったことから、運命が徐々に変化していきます。水墨画の巨匠の内弟子となり、その孫娘との関わり、その他のお弟子さんたちや大学の仲間とのやり取りが丁寧に描かれ、上質な作品です。清涼な気持ちになります。